

総 評

国語をのぞいて、どの教科も得点が伸びませんでした。

入試本番まで残りわずかとなりましたが、ここからはあまり手を広げず、重要事項の定着をはかりましょう。

今回のようなテストにしる、問題集にしる、できなかったところや、知識があやふやなところは、そのままにせず、見直しや解き直しを行うことが大切です。ミスや間違いはチャンスと考え、実力をのばすきっかけにしてください。

第1回の試験でも書きましたが、入試では「満点をねらう」のではなく、「解ける問題を確実に得点する」ことがポイントです。志望校の出題傾向やレベルをつかみ、弱点の補強や重要事項の確認などの準備をしっかりと行って下さい。

国 語

標準的な出題でした。

㊦は、問二と問五が難しかったようです。問五は、イ以外の記号をすべて選んだ解答が多かったです。問題文の「手をあげたと考えられる人」という言葉をとらえきれていなかったのではないのでしょうか。問題文で、どのようなことが問われているかを正確にとらえることが大切です。㊦は、問一の漢字の書き取り問題の「局地」、問二の四字熟語の問題の「適材適所」「二束三文」が難しかったようです。㊦は、問五、問六、問七が難しかったようです。特に、問七はすべての問題で一番得点率が低くなりました。問七は、筆者の主張におけるキーワードをとらえる問題でした。キーワードは、本文の中でくり返し使われているため、1か所だけでなく、他で使われている部分がないか、よく確認するようにしましょう。

算 数

難しめの出題でした。

①でまちがえた人は必ずふくしゅうしましょう。(4)のようにわり算が続いても、逆数にしてかける手順は同じです。②の(3)②、グラフから合計を求める方法を考えましょう。③の(1)、正方形は対角線の等しいひし形と見ることができます。④のように、面積や体積をグラフに表す問題は、入試でも頻出です。いろいろな問題にチャレンジしましょう。⑤の(2)は目の高さで線を引き、図形を分けるところがポイントでした。

⑥は難問でした。解説を読んで考え方を理解し、しばらくたってから解き直しをしてみましょう。

算数で大切なのは、問題の見方や考え方です。解けなかった問題も、解説を読み、考え方の幅を広げることが実力アップへの近道です。

社 会

難しい出題でした。

①と②は地理分野の出題でした。①は、(5)①のヨーロッパ州に属する国を略地図から選ぶ問題の得点率が非常に低くなりました。地理は位置を覚えることが大切なので、地図帳で国や都道府県、都市の位置を確認するようにしましょう。③は公民分野の出題でした。(1)Yの「国民審査」は「裁判員制度」と書いた解答が多く、(2)②の「閣議」は空欄が目立ちました。どちらも教科書に書かれている公民分野の重要な語句ですので、まちがえた人は正しく書けるようにしておきましょう。④と⑤は歴史分野の出題でした。⑤(3)Yの選挙権の問題では、「税金」の部分を書いていない答案が目立ちました。選挙権の拡大については、年れい、性別、納税額による制限の有無に着目して整理しておきましょう。

理 科

難しい出題でした。

①(2)は、実験で確かめられたこと、確かめられていないことは何かを区別して考えられたかがポイントでした。②は、文章量が多く、複雑な言葉がありました。理解できれば(2)②と③は計算自体は難しいものではありませんでした。③は、(1)がよくできていました。また、(2)と(3)は、易しい問題ではありませんでしたが、正解までたどり着いた人が少なからずいたようです。④は、太陽・地球・月の位置関係の変化を実際に見ているイメージで考えるとよいですよ。⑤は(2)と(3)が難しかったようですが、(4)と(5)は一定数の人が正解できていたようです。会話の内容をしっかりと理解できたでしょう。⑥は全体に難しかったようです。てこはよく出題されますので、しっかりと復習しておきましょう。

総合(適性)

前半の大問に時間がかかったためか、④の得点の伸びませんでした。最初に全体の分量を見きわめ、時間配分を考えながら取り組むようにしましょう。

①(2)は、札幌開成中でもよく出題される形式の文章記述問題です。指定されたすべての条件を満たし、だれにでも伝わるように表現する力を身につけましょう。②のような、切断した立体の形や切り口に関する問題は、中学入試でもよく出題される重要事項ですので、しっかりと復習しましょう。③のフローチャートは、手順を正しくとらえられるかがポイントでした。④は、資料の読み取りを中心とした出題でした。資料内の数量の関係を読み解く力を身につけましょう。

文章記述問題では、文章を書いたあとに必ず読み直し、誤字や文法的な誤りがないかどうか点検しましょう。